

同日午後5時から開通となり、1月末までの平均日交通量は約4600台、最大日交通量は開通直後の土曜日の約7000台に達し、計画日交通量の2400台を越えている。

安芸灘大橋は、中央支間長750m、橋長1175mの吊橋で、本州四国連絡橋群の8橋に次いで国内9位の支間長を有している。本橋の工事は、広島県・広島県道路公社が県道公共事業と有料道路事業の合併施工の形式で事業を進めていたもので、総工事費は前後の取付道路等を含んで、約500億円。平成4年度の現地着手から約8年の工事を無事故で終えて開通を迎えた。通行料金は、普通車が700円、歩行者・自転車は無料となっている。

安芸灘大橋は、2車線の道路と歩道という車線構成から、支間長が長い割に桁幅が狭い。このため、耐風安定性の確保が設計上の課題となり、箱桁形状の決定のため、入念な風洞試験を実施した。

主塔は景観面で優れたラーメン形式とし、架設ブロック間の継手を一般的なボルト接合から溶接接合に変更したことにより、添接板のないすっきりした外観をしている。

主ケーブルは、S字断面ワイヤーによるラッピングに加え乾燥空気を送気する最新の防食システムを採用し、ハンガーにはPE被覆した平行線ワイヤーを用いるなど、維持管理の低減に配慮している。



1999 12 月には実橋振動試験を実施し、ねじれ振動のほかに、これまでに実測データのほとんどない水平方向振動の振動特性を計測し、耐風設計条件を検証した。

(広島県道路公社 鳥海隆一)

小・中学生を対象に「地震を考える」学習会を開催

木更津高専環境都市工学科では、理工系教育推進事業の一環として、土木学会視聴覚教育委員会、大成建設(株)および千葉県中央防災センターの協賛と木更津市教育委員会の後援により、1月15日(土)に小学生を対象に「考えよう首都圏直下地震に強い構造物」、中学生を対象に「大地震から学ぶ直下地震にどう備えるか」を開催した。小学生は木更津市立清見台小学校6年生40名が参加し、中学生は木更津市立太田中学校1年生全員150名が参加した。

小学生対象には、土質実験室でアルミ棒を用いた断層模型実験装置によって、直下地震が発生した際に起こる地盤の動きの実験や、標準砂で



模した活断層上の建造物が地震で倒壊する様子などがわかる実験を行った。また、第三製図室のパソコン20台を利用して、兵庫県南部地震と同じ地震波を入力し、従来の建物と免震構造を持つ建物の揺れ具合を比較して地震に強い構造物について学習した。小学生達は、普段の授業とは異なった体験学習を通して終始楽しい様子だった。

中学生対象には、図書館ホールで「1995阪神大震災 - 人命・ライフライン・都市インフラ、その被害と残された教訓 -」、「JR六甲道駅復旧工事の記録」、「阪神大震災による道路の被害と復旧」の3本を上映し、被災したライフラインやインフラの復旧について学習した。また、昨年9月21日に発生した台湾大地震を、地震発生から3週間後に現地調査入りした本校の鬼塚教官から、断層の講義と被害調査ビデオを用いての報告が行われ、安全な都市づくりについて学んだ。

(木更津工業高等専門学校 佐藤恒明)

「見て・聞いて・土木の動き」投稿募集!

1 構成

- ・報文欄と情報欄の二本立て

1.1 報文欄

- ・報文欄は400～800文字程度(写真等1枚程度を含む)
- ・土木の動き(例:プロジェクト報告,委員会関連報告,会議報告,事故・災害,市民参加の見学会,かつての話題のフォロー等)を伝える話題を紹介
- ・特に、速報版的なニュース性のある話題、個人あるいは各地域特有の目撃談・耳寄りな情報、および会員にぜひ知らせたい有用な話題等を歓迎

1.2 情報欄

- ・情報欄は20～50文字程度(ホームページのURLを付記)

- ・委員会活動状況、支部活動状況等に関する情報の紹介で、原則として、その詳細が委員会、支部等のホームページに掲載されているもの

例: シンポジウム開催される 委員会
詳細: abc@def.or.jp

2 投稿要領

- ・原稿は、電子情報で土木学会に送付(edi@jsce.or.jp)
- ・文章は、テキストファイル(.txt)で送付
- ・写真は、JPEGファイル(.jpg)かGIFファイル(.gif)で送付
- ・N月号掲載の記事,情報の締切は,N-2月の20日(例:7月号(6月25日発行)掲載は5月20日)
- ・軽微な修正は、学会誌編集委員会の責任で実施